

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 11 月 28 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471502793		
法人名	医療法人社団ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ7引野		
所在地	広島県福山市引野町2丁目11-14		
	電話番号	084-940-5083	
自己評価作成日	2022年10月20日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 29 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 4 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・お客様お一人おひとりの個性を大切に安心・安全に過ごして頂く・地域との関わりを大切に持ち施設との垣根を低くする・お客様に・職員どうして 笑顔で挨拶

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>市の東部に位置し、静かな住宅街の中にあり、同法人のデイサービス等が隣接されている為、職員間の連携も図られている。得に地域との関わりができていて、地域の福祉委員の方や近隣の方等の声かけが常にあり、地域の一員としての理解が得られ、安心して生活ができています。コロナ禍の中でも地域との関わりは構築されている。又、医療面に関しても協力医療機関も近くにあり、24時間指示が得られる体制であると共に訪問看護師が週1回訪問され日々の健康管理も出来ていて医療面も安心である。ケアに於いても、コロナ禍ではあるが、感染予防を徹底し、色んな工夫をしながら、それぞれの分野で研修を実施し、個々のスキルアップに繋がられ介護技術向上に繋がっていると共に法人理念や年間目標を基に個人目標を立て、日々目標達成に向け取り組まれ、常に利用者側に立ち、今受けたい支援は何であるかを一人ひとりが模索しながら、個々を大切にされた支援をするよう全職員が思いを一つにし、ブレのない統一したケアに取り組まれている。また、食の大切さと楽しみとなる様、昼食は料理人(プロ)が作られた食事を提供し、目で楽しみながら、美味しく食されている。 家族との絆も大事にし、日々笑顔と優しい声かけを大切に個々の思いに耳を傾け、利用者と職員が信頼関係を築き、明るく穏やかな家庭的な事業所となるよう取り組まれている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日の昼礼にて、こやまケア行動指針を順番に読みその指針に対しての思い、取組を共有している	企業理念、法人目標、事業所目標等を基に個人目標を立て、上期、下期で達成度の確認を管理者と共に面談で行い、常に個々が目標に向い日々取り組まれていると共にケア行動指針の共有もされ実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・日々のお散歩を通じて地域の方と挨拶をかわしたり立ち話を行う ・年に一度の夏祭りには必ず職員・お客様・家族様と参加している ・町内会費を払い回覧板にて地域・町内行事等に参加する	コロナ禍の為、地域行事や事業所行事も中止となり以前の様な交流はできていないが地域の清掃活動には参加し、民生委員や福祉委員の方、近隣の方等気軽に声かけて頂く等、地域の一員として理解が得られている。福祉委員との交流で小さなネットワークを作り、地域との交流を深めていく取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の勉強会に参加 ・地域の福祉ネットワークに声をかけて頂き出来る限り参加している ・運営推進会議の呼びかけ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・お客様の状況報告・GHの運営状況報告 ・ご家族様との意見交流 ・行政・地域包括・町内会に参加を促し意見交流 ・2か月に1回開催	コロナ禍の為、以前の様な形での会議はできていないが、定期的に現状や取り組み、利用者状況については報告し、意見を頂くよう努めている。コロナ感染状況が少しでも良くなれば、再開し、多くの意見要望を得る働きかけをし、サービス向上に活かしていく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議の開催の書類を持って行くときに挨拶を兼ねて報告をおこなっている ・日程調整で参加可能であれば参加して頂く	疑問点や相談事項があれば、電話等で相談する中で取り組みや実情等を伝え、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全ての拘束についてははしない、させないで全職員に徹底はしている ・ミーティングでの話し合いを持つ ・身体拘束委員会を立ち上げ3か月に一度委員会を開き、全職員に周知する	基本身体拘束はしない方針である。リスクに対しては、様々な工夫を考えながら、できるだけ抑圧しない、制止しない支援に取り組まれている。拘束委員会も定期的実施し、全職員が正しく理解するよう取り組まれている。リモートで研修も行っている。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・エリア会議にて各事業所から虐待・不適切ケアの報告を行いその後虐待防止委員会に落とし込み、全職員に周知する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・特になし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ご家族様には丁寧な時間を設けて頂き説明を行う ・苦情等に関しての窓口(管理者・ケアマネ)の説明を徹底している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年に一度こやまケアお客様アンケートを送付、回収後ご家族様の意見を反映 ・反映した取り組みをフィードバックしている	訪問制限があり、対面での意見等は聴取できないが、毎月、現状について事細かく報告、理解してもらう中で意見や要望があれば気軽に伝えてもらう様務めている。また、家族アンケートを年1回実施し、その結果に対し、改善点や今後の取り組み等について全家族に報告すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に一度エリア会議にて報告・相談の機会を持つ ・日々の状況については申し送りノートを活用しMT時に落とし込む ・GH部門会/事業所部署長会議	申し送りノートを活用し、気づきや意見等があれば記載すると言う体制と共に申し送り時にも聞く機会を持っている。色んな場面での意見等はミーティングで検討し反映させている。また、個人目標の評価について個人面談を年2回行う中でも意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・2022年度事業所の目標に対して上期・下期で個人目標を設定、評価を行いその時に個人面談を行う ・リフレッシュ休暇・有給休暇の取得		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・コロナ禍でウェヴでの研修が充実し全職員が内部・外部研修に参加が出来る ・こやまCollege(介護福祉士資格奨励制度)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・福山市東部の包括支援センター・居宅・施設と連携を図る小地域ネットワークに参加し情報交換等の取り組みに参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・モニタリング時や日頃の関わりの中でご本人様との会話で望まれている事を丁寧に聴きだす		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面談時や契約時にご家族様の状況と要望をしっかりと伺いサービス提供時のケアプランに反映するように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービス提供が始まるケアプラン(最初は1か月)に要望等を取り入れ、ご本人様の様子・ご家族様の意見を取り入れ本プランに反映する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一人ひとりのお客様に寄り添い声掛け、行動に気を付けて細やかなケアに取り組む ・行事/お誕生日会/お花見/夏祭り/ドライブ等も一緒に楽しむ取り組みをおこなう		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月に一度、お客様のご様子を写真付きでお客様担当の職員が報告を行う ・お手紙を書くことの出来るお客様にはご家族様にお手紙を書いて頂く ・暑中見舞い/年賀状は職員が手伝いお客様に書いて頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お部屋に写真を置いたり、地域の敬老会に参加する ・散歩を通して交流を図る	家族の訪問も制限されているが、訪問の予約をしてもらい、抗原検査を行うと共に感染予防を徹底し、お庭やエントランス、また、窓越し等で会ってもらい、家族との絆が途切れない支援を心掛けている。家族同行の受診の際には自宅近くまでドライブする等、お互いの不安解消に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置や席の位置を考慮しトラブルにならないよう配慮する ・ゲームや歌等を一緒に楽しめるように日頃から取り組む		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて相談・支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の会話の中でお客様の思いを吸い上げ出来る限り添えるように取り組む ・お誕生日会等でケーキを選んでもらったり、意思確認の難しいお客様には表情で見極めれるように努める	日々会話する時間を多く持ち、その中から把握すると共に利用者同士の会話からも汲み取ることもある。食べ物や帰宅願望等の思いが出る。出来る限り思いに沿うように努めている。お誕生日には好みの食べ物を提供している。表出困難な方には、生活歴や家族の協力を得ると共に言葉かけからその時の表情で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシート、、アセスメントを活用し全職員が周知し取り組む		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個人記録用紙に24時間の状態・状況を記入 ・特記事項も細目に記入する ・午前午後二回のバイタル測定 ・毎日ケアプランチェック表にてチェックを入れる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・お客様担当、CM、管理者、リーダーでカンファレンスを行い全職員に落とし込む ・ご家族様には事前に要望等を電話にて連絡確認をおこなっている	家族の要望、主治医の所見、カンファレンスで個々のニーズや課題について職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟、且つ現状に即した計画を作成している。アセスメント、モニタリングを定期的に行い、3ヶ月毎に見直しし、家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録/水分提供表/BPチェック/排泄管理表/服薬管理表で日々の確認 ・インシデント・アクシデント表の活用 ・申し送りノートの活用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型施設なので他部署の応援やショートに顔を出しにいたりとその時々で柔軟に対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事には積極的に参加 ・地域の方からお誘いがある ・地域清掃にお客様と参加 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医とは日頃から連携をとり緊急時も臨機応変に対応 ・月に2回の主治医往診 ・歯科医もお客様と契約を結び定期的に往診 	協力医療機関の往診が月2回、かかりつけ医の往診も月2回ある、24時間指示が得られる。訪問歯科支援もあり、皮膚科も依頼すれば往診してもらえる。眼科等については事業所が通院支援している。又、訪問看護師が毎週訪問され日々健康管理され、医療面は安心である。結果も家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1度 水曜日 いずみ訪看往診 ・訪問看護用の連絡表を作成し、前日の夜勤者がお客様の状態を書き込む ・気になるお客様・処置の必要なお客様は特に詳しく伝える 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室と情報交換を行いスムーズに退院ないし転院が出来るようにしている ・ご家族様が困らないように地域連携職員との繋ぎをしている 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に看取り対応の説明を行いご家族様が望まれる形で取り組んでいる ・看取りの段階に応じて主治医・ご家族様・施設職員によるカンファレンス ・看取り指針をご家族様に伝え、ご家族様の意思確認書を取る 	利用開始時、指針を基に説明し、理解は得られている。重度化した場合には主治医から家族に説明され、家族、医師三者で密に話し合い、その都度家族に意思確認を行い方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。主治医との協力体制も構築されている。また、急変時等の勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急の勉強会実施 ・AEDの保管場所の把握 ・緊急連絡網の更新 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の消防/災害避難訓練実施 ・地域の方・包括センター・行政にも声をかけて参加を促す 	年2回、日中、夜間を想定し、通報、消火、避難誘導の訓練を行い、慌てず、速やかにできるよう取り組まれている。実施後は反省会を行い今後の課題についてや自然災害についての話し合いもしている。コロナ禍の為、地域への依頼はしていないが、常に地域の役員の方の声かけもあり、協力体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室での排泄介助/トイレ誘導等プライバシー確保 全職員周知 人生の大先輩としての生き様を尊重し見下した態度、声掛けは無いを掲げている 全職員が見える場所に禁句9カ条を貼りだす 	生活歴を把握しその人に合わせた声かけや対応を心掛け、常に人生の先輩であり、個々の人格を尊重した支援をするよう周知し、気づいた時には注意合っている。言葉の禁句も掲げ、プライバシー確保に努めている。書類に関しても適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 介護者目線でなくお客様目線での誘導 ご本人様の思いが届きやすいような声掛けの工夫と寄り添う力を養う 食事/排泄/入浴/睡眠 必ず声をかける 黙って介助を行わない 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> その日 その時間のお一人おひとりの状況を把握、確認を職員どうしが声に出し無理強いせずお手伝い出来るようにチームでの取り組みの実践 		
39	na	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 好きな洋服・こだわりのある物の把握をしてお客様の個性を大切に職員が周知して取り組む 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 器の形・色の工夫 お客様に沿った食事形態での提供 下膳・お盆拭き等出来る力を引き出し継続 テーブル拭きは皆様自分の仕事として取り組んでいる 	ミキサー食等、個々の身体状況に合わせた形態で、盛り付けや栄養バランスにも配慮され、食を促す声かけや食材の話等しながら、個々のペースを大切に楽しみの時間となるよう取り組まれている。御盆拭き等、できそうな方には声かけし、力量発揮の場面作りをされ、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 水分摂取量の記録と目安を全職員が周知し取り組んでいる 水分摂取が難しいお客様には細目に提供 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後の歯磨き・うがいの実施 義歯のお客様は夕食後に預かり洗浄剤にて清潔の保持 ハミングッドを使用して口腔内の清潔保持 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表にて時間の把握と声掛け誘導 ・排便にかんしてはトイレにて排泄介助に努める ・立位不安定なお客様は二人介徐にての誘導 	個々の時間帯で声かけし、トイレでの排泄に努め、座位、立位をする事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かした支援をしている。2人介助が必要な方にもトイレでの排泄に努め、気持ち良く排泄してもらう様取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘解消の体操 ・階段昇降(自立で階段えお使用できるお客様限定) ・腹部マッサージ ・乳酸菌飲料の提供 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴チェック表にて日数確認 ・時間にこだわらず必要に応じて入浴対応 ・入浴が難しいお客様には清拭対応にて清潔保持 	週2回、午後となっているが、其の時の状況を見ながら、柔軟に対応し、楽しく入浴してもらう様取り組まれている。拒否の方には声かけの工夫やタイミングを見ながら清潔保持に努めている。足浴や清拭も適宜行うと共に出来る限り湯船に入ってもらい血行促進に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな時間を好まれるお客様にはお部屋にて休んで頂く時間の提供 ・照明の工夫 ・お部屋の温度調節 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝・昼・夕の各お客様の処方薬をラミネートにて確認 ・必ず職員二人で確認後服薬 ・薬の配役はダブル・トリプルのチェック ・目薬・下剤の保管の徹底 ・薬の変更時は申し送りノートにて周知 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は散歩や日光浴の実施 ・洗濯物たたみ・お盆拭きのお手伝いを実施 ・軽体操・歌・リズム体操の実施 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お散歩 ・ドライブ ・お買い物 ・(コロナ禍でここ3年あまりはお散歩以外は未実施) 	コロナ禍の為、外出支援はできていないが、近隣を散歩し、その時々季節を感じてもらったり、少しでも五感刺激となる様務めている。室内行事を多く企画し、楽しんでもらう中で気分転換となる支援を心掛けている。家族と受診される時には少し足をのばし、ドライブを楽しんでもらう事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的に現金扱いはしていないが、お買い物行事を組んだ時は事前にご家族様に伝えて仮払い方式にて現金使用		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・お手紙を書けるお客様には書いて頂きご家族様に送る ・ご家族様からの電話の取次 ・暑中見舞い・年賀状		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テーブル・椅子の位置 ・照明の色 ・季節を目でみて感じる展示品・装飾品 ・空調調整	リビングには、利用者の作成された折り紙やぬり絵等が飾られている。又、季節が感じられる装飾品もある。室内も明るく、ソファも置かれ、好きな場所で過ごす事ができる。不快な匂いや死角もなく、安心して過ごせる共有の場である。又室温や換気の配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自席の確保 ・ソファの位置 ・テレビの位置どり		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家族様との写真を飾る ・私物を置く(ご仏壇あり)・テレビ ・ご本人様が混乱されないよう配慮をし置物等は 選り職員周知する	テレビや家族との思い出の写真、作成されたぬり絵、お誕生日の時の似顔絵等が飾られている。好きなぬいぐるみやドライフラワーも置かれ、自宅に近い環境づくりをされ違和感なく穏やかに過ごせる環境作りをされている。時計あり、時の認識に繋がられている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室に名前を貼る ・トイレが分かるようにトイレと書いて貼る ・しょうがい物が無いように動線の確保		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの			○	②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームえんじゅ引野

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 2 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍で運営推進会議を開く事が困難だった、とはいえ方向、工夫は必要だった	感染症で交流が途絶えてしまったが伝達の方法を考え継続していく。	お手紙で状況を伝える。リモートでの会議の設定。	すぐに
2	6	身体拘束をしないを徹底する。勉強会や環境の整備を継続、職員の意識の持ち方。	職員一人ひとりが、何故身体拘束をしない、させないを理解したうえでお客様の安心安全を提供する。	勉強会に全職員が受講し、振り返りをミーティングで落とし込む。日々の接し方等を職員間で報告。	すぐに
3	23	生活されている18名のお客様を職員がどれだけ理解をして日々の会話で向き合っているか、再度認識	各ユニットの職員が、お客様の思い、希望を受け入れられる体制で取り組む	お客様担当の職員がまずは自分の担当のお客様をしっかりと知り関わる。その中で行事や日々のお話をする内容を他の職員に落とし込む。	すぐに
4	49	コロナ禍で外出行事が組めていない。お客様の重度化で遠出が難しくなっている。	日程を調整しながら、近場で良いので外出行事を組み、お客さまのストレス軽減につなげる。	車椅子対応であっても、日々の散歩、お陽様に当たり、外の空気に触れて頂く。	すぐに
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。